

2016年度前期 学生授業評価アンケート集計結果に対するコメント

—法学部—

法学部長 鋤本豊博

授業評価の目的は、授業の質を高めて教育の改善を図ることにあり、各教員はアンケート結果を授業改善につながる資料として活用することが期待されている。しかし、結果の数値を正確に受け止め、これに還元できないものまでも読みとって具体的な授業改善に繋げることは至難である。

今年度の特徴は、ほぼ全体的に前年度に比べ数値の微減傾向が見られたことであるが、一昨年の数値に戻ったともいえるので、それほど問題視するには及ばないであろう。ただし、「予習または復習をした」という項目の平均値が、前期に限ってではあるが、ここ3年間だけでも減少傾向にある(3.28→3.24→3.13)ことは要注意である。予習・復習を「よくした」とは、週に何時間のことなのか不明なので断定はできないが、学生の「学ぶ力」の減退を示すものだとしたら、由々しきことである。現在、学生を本気モードにさせる仕組みを授業内に構築する試みが行われ始めているが、改善を重ねていく所存である。